

## 「木は地球を救う」 — 10

細田木材工業(株)

相談役 細田 安治

### 異常な気候変動

8月、9月の地球はかつてない異常な気候変動に襲われた。十指に余るほどであろう。ハワイ島の噴火、カリフォルニア州 摂氏50度、ギリシャも高温山火事発生、日本列島大豪雨、山崩れ、川の氾濫、次々襲来する台風の高潮被害・・・数え上げればきりが無い。特に日本列島では、各地の被害を伝える気象庁の発表は「観測史上かつてない大雨による」とか「観測史上経験したことがない」を繰り返している。しかし例がない。経験したことがないから、つまり想定外だった。では済まされない。このような災害が発生することを前提に対策を立てておくことが重要である。

### 集中豪雨

短時間に降る大雨、即ち集中豪雨は、山崩れ、土砂崩れを発生させながら河川に流れ込み、橋を壊し、堤防を越え氾濫し災害をもたらす。災害報道に必ず出てくる定番は、丸裸になった木が、人家を潰し、橋を落とす。テレビ報道では繰り返し、丸裸の木が報道され悪者扱いだ。これは如何にも、つまみ食いの報道である。なぜこうなったか。前号でも述べたが、木の役割について何も報道されず残念でならない。

この原稿を書いている日にも、台風21号の襲来により、大阪府周辺は大きな被害に見舞われた。特に最大瞬間風速47.4mの強風により、建物の屋根はまるで紙細工のように散り散りに飛ばされ、重さ1トンもあろうかと思われる乗用車が風に押されて動き出し、中小型バン型トラックは、走行中に横倒しとなった。

関西空港では高潮のため、滑走路が水浸しになり全面欠航となった。東京が襲われたらどうなるだろう、大変なことになる「怖いことになる」と恐怖を感じた。

### 震度7の大地震

このような被害が発生するなかで、追い打ちをかけるように、北海道南部で震度7の地震が発生、周辺の山々では、大雨で緩んでいた地盤が森林ごと崩れ落ちた。土砂崩れ、山崩れと言うより山津波だ。麓にある家々が、土砂に覆われ人命にも及ぶ大きな被害が発生し、不幸にして亡くなられた方々に深く哀悼の意を表し、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

### 東京に襲来したら

地球は一体どうなってしまったのか？即答できない難問だ。このような、21号規模の強力な台風で東京が襲われたらいったい“どんな被害を受けるのか”想像するのが怖くなるほどだ。手の打ちようがない

のか。無為無策でいいのか。これでは思考停止だ。こんな恥ずかしいことはできない。「木材や」を名乗っているからには、「木材や」にふさわしく、また社会人として、できることからしなくてはならない。そのうえで、非常時対応の「危機管理とは」を追求せねばならない。

## 昭和20年代の台風の教訓

ここで、孔子の教え「故きを温ねて新しきを知る」今を知り今を知って未来を見通すの歴史(筆者が経験した範囲)に学ば、昭和20年終戦直後全くの焼け野原から製材工場が復興に立ち上がった時代のことだ。まず、昭和22年カスリーン台風、昭和24年にはキティ台風が襲来した。筏が行き来する深川の河川は、高潮を防ぐ水門は未だ復旧しておらず、川筋の製材工場は全く無防備であり大きな被害を受けた。

## 危機管理

工場の外で、台風襲来に備えて事前にできたことは、まず筏を固めること。筏の前後を荒縄をまわし、しっかり固める。次に「もやい綱」は荒縄を幾重にも振り太く強く、そして長く長く、余裕をもって「もやい杭」に括り付ける。河岸揚げ場の傾斜には、汐留板を固定し、内側にしっかり土嚢を積み上げ、高潮の侵入を防ぐ。製材品は強風で飛ばされないよう荒縄で括り付ける。乾燥棧積みの山は、強風で飛ばされないように、ひと山丸ごと荒縄で固定した。事前対策として、工場の外でこの程度のことしかできなかった。工場のなかでは、製材機のバンドソー、テーブルバンドソーのモーターを外し、高いところに上げるぐらいのことしかできなかった。

## 高潮

押し寄せる高潮は汐留止め板と土嚢を乗り越えてあつと言うまに浸入した。高潮は工場内を通過し大門通りから、東側の低地に向かって流れ、都電が通る四ツ目通りに向かった。大横川から水は東へ、横十間川からの水も西に向かって流れ出し、四ツ目通りで合流、川のようになり、人々は舟やボートや流れ出た木材につかまって行き来した。



江東区の水害  
出典：ネット

## 昔の向島

昔の話が出たついでに、向島で育った作家幸田文の随筆によると、台風時期に、「避難用の舟を備えるか、すぐに筏を作れるような板や丸太を用意する家があった」と随筆に書いている。今回の災害による救助活動でボートを使っただけの救出は、まるで幸田文の向島や、終戦直後深川の高潮時代にタイムスリップしたようだ。加えて、岡山県倉敷市の水害、台風21号が襲った大阪市の強風など、自然災害の恐ろしさは国民全体に浸透し、災害に対して、備えが厳しく問われている。出典：朝日新聞 天声人語より一部参照

## 江東5区川氾濫予想図

東京江東5区(墨田区、江東区、足立区、葛飾区、江戸川区)の「江東広域避難推進協議会」は、域内を流れる荒川と江戸川の周辺で、3日間の総雨量が500～600ミリ程度に達したという前提で、最大浸水域を予想し、氾濫した場合の被害想定をまとめた。

荒川の沿岸は、ほとんどが3メートル以上浸水するとし、特に荒川が大きく湾曲している足立区北千住駅周辺は5メートル以上浸水する。被害想定は、人口の9割をこす250万人が住む地域が、床上浸水し避難が必要となる。1割の地域は2階まで浸水すると予想した。更に、合計100万人が住む地域で、最悪2週間以上水が引かないとのシミュレーションも示した。これは西日本豪雨を上回る想定だ。

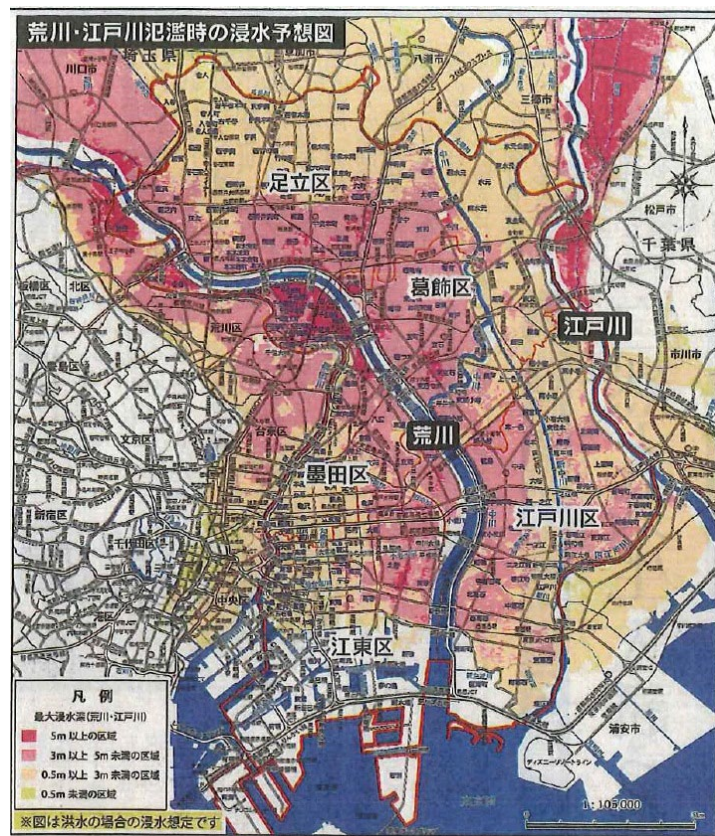
避難勧告に沿って、埼玉や千葉などに電車や徒歩で向かうよう求めるが、「避難先は自分で見つけて欲しい」とまるでお手上げ宣言だが、これが現実なのか。出典：日経新聞

新木場は外郭堤防の外であり、江東区にある8つの水門の外側に位置する。まったく無防備な地域だ。今回の21号台風で被害を受けた関西国際空港と同じ条件になる。21号級に襲われたら・・・どうするか答えが出ない。

中途半端なレポートですが紙面が尽きました。今回はここまででお許しください。

続く

尚、詳細の数字、図面、写真については東京都港湾局のホームページをご覧ください。



浸水予想図